令和４年度第一学院高等学校養父校　学校評価報告書（最終評価）

令和５年７月２５日
養　父　市

第一学院高等学校　養父校から提出された資料及び学校視察等により学校評価を行ったので下記のとおり報告します。

記

Ⅰ　総合評価

少子高齢化、グローバル化、AI に象徴される高度情報化等、社会の急激な変化に伴い、通信制高校の使命も、勤労青年に高等教育の機会を提供する学校から、多様な動機をもった生徒の学びの場へと変化してきた。平成 20 年に開校し、15 年を経過した第一学院高等学校養父校においても、学校に行きにくい生徒だけではなく、学業とスポーツや文化活動との両立を図りたい、高校卒業の資格を得て次の進路につなげたい、全日制では叶わない時間的な余裕をもち自分のペースで勉強したいといった様々なニーズをもつ生徒が入学するようになっている。

この３年間のコロナ禍で様々な制限が加わる中、第一学院高等学校養父校においては学習管理システム（LMS）の導入により、多くの生徒と容易に通信ができる環境が整い、生徒の学習意欲を高め効率的な学習管理をおこなうことが可能となり、新型コロナウイルス感染症の影響を最小限に食い止めることができた。また都市部のキャンパスにおいても、教職員の丁寧な指導により生徒のニーズに合った教育活動が展開されている。

令和４年度は、感染対策を十分に行いながら、スクーリング等の教育計画は予定通りに実施することができた。さらに開校 15 周年の記念行事も盛大に開催され、卒業生や地域の関係者と共に祝い、15 年の足跡を振り返りながら、さらなる前進を期することができた。

平成 29 年５月に行われた文部科学省の点検調査で指摘を受けた問題点(教員配置の充実、文書による業務内容の明確化、面接指導が実施されていない教科の改善、レポートに対する解説やアドバイス指導の充実、学校設定科目「体験学習」の教育目標及び水準の維持、添削指導回数の改善、学習成果の報告の充実、特区区域外での試験の実施など)においては、平成 29・30 年度に改善された。

この 15 年間で学校は地域に溶け込み、人が集まることによる経済効果、地元の人的・物的資源を活用することによる地域の活性化という、構造改革特区に申請したときの目的を果たすことができている。

３年間のコロナ禍の影響ではないかとの指摘があるが、全国的に学校に行きにくい生

徒が大幅に増えており、通信制高等学校の存在意義はますます大きくなるものと思われる。今後も広域通信制高等学校として高校教育を担うという自覚と責任をもち、ＰＤＣＡサイクルを活用して、これまでの取り組みをさらに改善し教育活動の充実が図られるよう期待する。

Ⅱ　学校の教育活動及び管理運営に関する事項

１　学校の概要（令和４年５月１日現在）

<table>
<tr><td>学校名</td><td colspan="4">第 一 学 院 高 等 学 校　養 父 校</td></tr>
<tr><td>学校長</td><td>岡本　達治</td><td>理事　山口雅司
本務教員（34 人）
校長(1)・教頭(1)
教諭(30)・養護教諭(2)
兼務教員(109 人)</td><td>本務事務員(15 人)
事務長(1)
事務員(14)
兼務事務員(27 人)</td><td>合 計
186 人</td></tr>
<tr><td>課　程</td><td colspan="4">通信制（単位制）課程（本科）　　普通科</td></tr>
<tr><td>生徒数</td><td colspan="3">１年　712 人　　２年　1,117 人　　３年　1,538 人</td><td>合 計　3,367 人</td></tr>
<tr><td>課　程</td><td colspan="4">通信制（単位制）課程　専攻科</td></tr>
<tr><td>生徒数</td><td>保育士専攻　　244 人</td><td colspan="2"></td><td>合 計　　244 人</td></tr>
</table>

２　学校目標

学校は建学の精神として、「『常に素直な心』『夢を意識し、夢を持つ』『達成実感・貢献実感』をベースに教育理念である『生徒第一・１/１の教育』に基づき、独自の意欲喚起教育『プラスサイクル指導』を通じて生徒一人ひとりをプラスサイクル思考にし、夢を持ち、自分自身の将来を具現化できるように生徒の『学び』をサポートする。」を掲げている。教育理念の『生徒第一・１/１の教育』の実現に向けて不登校生徒一人ひとりに寄り添い支援するという姿勢は、不登校生徒に関わっている近隣の中学校教職員にも意識改革をもたらしている。

３　学校評価について

年度末に、養父校教職員、委嘱している名古屋から鹿児島までのキャンパス教職員及び東京本部教職員による自己評価を行い、その結果は学校のホームページに公表されている。令和４年度学校評価は、昨年度より細分化し、33 の内容について 43 の評価項目を設定して行い、「実践できた」が６項目、「概ね実践できた」が 36 項目、「一部実践できなかった」が１項目と評価している。

また、令和４年度養父校通学生として在籍していた全員の生徒とその保護者にア

ンケートを実施し、生徒 84 名、保護者 30 名から回答を得ている。

それによると、95.3%の生徒が自分の成長について肯定的にとらえ、「生活習慣面」「人間関係面」「進路面」「学習面」の順で成長を実感している。しかし「今の自分は好きですか」の質問に対しては 59.5%の生徒が否定的にとらえており、自己肯定感の育成という点で課題がみられる。

保護者へのアンケートでは、「第一学院に期待すること」の質問に対して、86.7%もの人が「高校卒業」を挙げ、次いで「1/1 の教育」「友人関係」となっている。

「第一学院高校を人に勧めたいか」の問に 64.3%の生徒と 89.9%の保護者が肯定的に答えており、一定の評価を得ていることがわかる。

４　教育活動の状況

（１）学習指導の状況

ア　年間指導計画について

・新型コロナウイルス感染症拡大のなか、学習管理システム（LMS）により年間指導計画に沿って授業が進められている。面接指導についても令和４年度は予定通り全て実施できた。

・必修科目、学校設定科目の年間指導計画には、科目の目標、報告課題（年間計画）、面接指導、試験などが具体的に表記されている。

・令和元年度、基礎基本を学びたいというニーズに応えるため、学科改編が行われ総合学科が廃止された。令和４年度は全学年普通科という編制になった。生徒数はこの数年間増えており、ニーズに合った改編であったと評価できる。

イ　面接指導（スクーリング）について

・ＮＨＫの教育番組や教科書出版社の教材など複数メディアの活用により、面接指導が補われている。

・予定通り 21 回のスクーリングを実施し、4,187 人の生徒が受講し、4,100 人の生徒が満了し、87 人の生徒が途中帰宅した。87 人の内訳は、精神面の不調 48 人、体調不良 33 人（内新型コロナ感染症 3 人）、問題行動 5 人、その他 1 人であった。

ウ　添削指導について

・添削指導は新型コロナウイルス感染症拡大の影響は少なく、学習管理システム（LMS）の活用により計画的に行われている。

・添削指導は生徒の学習理解に応じて適切なコメントを書くなど、生徒一人ひとりに適した指導が行われている。

エ　試験について

・令和４年度はスクーリング時に本校にて実施された。スクーリングに参加できなかった生徒については、別日程のスクーリングに参加させたり、別日に登校させたりして試験が行われた。

（２）進路指導について

・養父校と各キャンパスが連携をとり、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行っている。

・進路未定の生徒に対しては、卒業後も継続した指導が行われている。

令和４年度卒業生進路先（令和５年５月１日現在）全体

種別	人数	種別	人数
大学	509	短期大学	46
専門学校	411	その他（職業訓練校等）	12
就職・その他	579		
合　　計　1,557			

内　本校通学生

種別	人数	種別	人数
大学	10	短期大学	1
専門学校	4	その他（職業訓練校等）	4
就職・その他	18		
合　　計　37			

（３）家庭や地域との連携について

・キャンパス生やモバイル生の保護者には月１回、各学習センター（キャンパス）・東京事務局から「学校通信」を、本校通学コース生の保護者には月１回、「学校便り　わんわら」「保健だより」をタブレットにより配信し、生徒の継続的な学びをサポートしている。

・学校祭（五好祭）は、飲食の模擬店を取りやめた以外は、感染対策を徹底した上で通常通り実施された。午後には開校 15 周年記念式典が開催され、地域の関係者を招き祝うことで、連携をさらに深めることができた。また、地元の行事「万灯祭」や南但馬警察交通安全ボランティアにも生徒が参加し、地域に貢

献した。

・保護者や地域の代表を交えた評議員会が年に２回開かれ、連携を深めながら教育活動の改善が図られている。

・養父校及び各学習センター（キャンパス）では、第一学院高等学校公式ホームページを通じて、生徒の学習活動状況や進路状況等が公開されている。

５　学校管理運営の状況

（１）教職員について

・養父校以外の施設（東京本部・直営連携サポート施設）に勤務する教職員に対して、業務内容を明確にした委嘱状を発行し、在籍する生徒数に対して学校長の管理下のもと学習指導要領に基づいた指導を講じていくための教職員が配置されている。

（２）研修の実施について

・学習管理システム（ＬＭＳ）の使用に当たっては、使用方法だけではなく適切な添削指導のための研修が定期的に実施されている。

・また、教科研修、生徒指導研修、進路指導研修、教務指導研修などの各研修を計画的に実施し、教職員の資質及び専門性の向上が図られている。

（３）事務管理について

・兵庫県の委託事務である就学支援金は、専任の職員２名によって適切に処理・管理されている。

・教員免許の管理表簿等についても学校設置会社㈱ウィザス大阪本社及び東京本部（第一学院高等学校東京事務局）と連携を図りながら適切に管理されている。

・法で定められている学校の備付表簿は、すべて整備されている。

Ⅲ　学校設置会社による設置事業の状況

１　学校設置会社の役員及び株式の状況

別紙、事業報告のとおり。

株式会社ウィザスの 2022 年度の事業報告では､経常利益は過去最高を記録した前年度より微減であったが、売上高は過去最高となり、堅調に推移している。

また､第一学院高等学校養父校の 2022 年度の売上高､経常利益は過去最高となっている。

２　学校の経営に必要な財産等の状況

別紙（当日配付)、事業報告のとおり。

光回線設備、高圧電気設備、消防設備、空調設備、ＬＥＤ照明設備、ＰＣ(30台)、大型テレビモニター、車両、除雪機、スクールセット(260セット)等、学校運営に必要な資産を有している。

３　面接指導等を実施した設備の状況

平成16年に閉校した旧大谷小学校の土地建物（土地6,527㎡・建物2,358㎡）を養父市と30年間賃貸借契約（～令和19年３月）を結び利用しており、校長室（１室)、職員室(３室)、事務室(２室)、一般教室（６室)、特別教室（３室)、図書室（１室)、ＰＣ室（１室)、保健室（１室)、サーバー室（１室)、体育館及びグラウンドを有し、適宜改修や修繕を加えている。

４　連携施設との協力・連携に関する状況

直営の24か所の学習センター（キャンパス）の教職員と連携をとり、校長の指導のもと学習支援、学校生活支援、また進路指導として生徒の希望進路に基づく大学等受験対策指導・就職指導など、一人ひとりに応じた丁寧できめ細かな指導を行っている。

５　特区計画による学校設置に係る地域への経済効果について

全ての生徒が養父市で面接指導を受講するので、これに関わる養父市の経済効果（大型バス借上げ費、スクーリング時の宿泊費・飲食費、体験学習講師謝金・材料費等）は、概ね（1億3,900万円）になる。また、地域消費経済効果額と市内で職員が個人で消費する額を合わせると、概ね（4,700万円）になる。さらに、「株式会社　ウィザス」は令和４年度中に養父市に67万1500円の法人税を納めている。